



千葉あいご
二〇一六年十二月号

第64号（二〇一六年十二月号）

発行日 平成28年（2016年）年十一月二十日

● 第13回「人への役に立つお仕事」合同説明会

発行者 里見吉英

編集者 畠山正昭・菅谷大輔・大橋宣彦

発行所 千葉県知的障害者福祉協会

（本部）千葉市中央区中央四一四一十 友美ビル二十三B

（事務局）℡ 043（134）5721
HP <http://www.chibachiteki.com/>
船橋市金堀町四九九一 大久保学園内

℡ 047（457）1461

2016年度 関東地区 知的障害関係施設種別代表者会議（千葉大会）

2016年度関東地区知的障害関係施設種別代表者会議（千葉大会）が平成28年10月31日～11月1日の2日間にわたりアパホテル＆リゾート（東京ベイ幕張）で開催されました。関東地区知的障害者福祉協会の会長及び各種別の代表者が一堂に会し、施設が直面する課題について研究、討議し実践として活かすことにより知的障害者の福祉の向上に寄与することを目的に285名の参加で開催されました。1日目は①会長・副会長・事務局長部会、②児童発達支援部会、③障害者支援施設部会、④日中活動支援部会、⑤生産活動・就労支援部会、⑥地域支援部会、⑦相談支援部会、⑧支援スタッフ委員会の8つの分科会が行われ、それぞれのテーマで議論がなされました。

会長・副会長・事務局長部会では、「現状と課題について（関東地区会として）」というテーマで、現状、障害者総合支援法施行後3年を目途とした検討をはじめ、社会福祉法人改革、報酬改定等、障害者福祉を取り巻く諸課題が山積みであり、関東地区の協会として何をすべきかを、講演と意見交換を中心に討議が行なわれ

ました。講演として、日本知的障害者福祉協会事務局長末吉孝徳氏より、改正社会福祉法について、公益性、非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底することを目的とした制度改革の主な内容、今後の諸定款の施行スケジュール等を説明して頂き、今後の法人運営について留意しなければならない部分として、組織運営のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みを実施する責務、行政の関与の在り方等を、実例や最新の情報を交えながら説明して頂きました。

続けて、日本知的障害者福祉協会政策委員長河原雄一氏より、平成28年度、平成29年度の日本知的障害者福祉協会政策委員会活動についての説明があり、今後、協会としてどのような取り組みを進めて行くか、また改正社会福祉法の施行についての説明がありました。

知的障害福祉のこれからとして、社会保障費の抑制の観点から、財務省が示した見直しの概

2016年度 関東地区
知的障害関係施設種別代表者会議（千葉大会） ①・②・③
● 人の役に立つお仕事 合同説明会 ④・⑤・⑥
● 開催のお知らせ ⑦・⑧
● 平成28年度 福利厚生事業 ⑨
● 新事業所紹介 ⑩
● 千葉知協トピックス ⑪
● 事務局だより・編集後記 ⑫

く情勢が動く年となることを再確認するとともに、障害者総合支援法施行後3年を目途とした見直し事項として、當時介護をする障害者等に対する支援、障害者等の移動の支援、障害者の就労の支援、その他障害福祉サービスの在り方、障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方、障害福祉サービス利用の観点、障害者意思決定支援や成年後見制度の利用促進の在り方、手話通訳士の派遣、その他聴覚、言語機能、音声機能その他の障害の為、意思疎通を図る方に支障のある障害者等に対する支援の在り方、精神障害者及び高齢の障害者に対する支援の在り方と、それぞれの見直しが必要であり、その為の基本的な考え方として、新たな地域生活の展開や、障害者のニーズに対するきめ細やかな対応、精神障害者の地域生活の支援、質の高いサービスを持続的に利用できる環境整備等が考えられております。

そして、障害者総合支援法、児童福祉法の一部を改正する法律案の概要としては、施設入所やグループホーム利用者に対し、巡回訪問、随時の対応により、円滑な地域生活に向けた助言、相談を行なうサービスの新設（自立生活援助）、就業に伴う課題解決のため、事業所、家族の連絡調整を行なうサービスの新設（就労定着支援）、65歳に至るまで障害福祉サービスを利用してきた低所得者に対する、介護保険サービスの利用負担を障害者制度により軽減する仕組みを設ける事、重度の障害を持つ児童への居宅訪問による医療、保健、福祉の連携促進、自治体における障害児福祉計画の策定、都道府県がサービス事業所の情報を公表する制度を設けると共に、事務の効率化をはかるための所定の規定を設定することとなつておらず、それらの詳細について説明して頂きました。



説明後には講演を通じての意見交換が行われ、余裕財産の算定方法については社会福祉目的でしか使うことのできない余裕財産に対し、あえて規制をかける意味があるのだろうか。また、建て替えや大規模修繕の補助金が期待できない中で現在の算定方法が合っていないのではないか等の意見交換がなされました。次に、退職共済についての意見が上がり、福祉業界の人材確保が困難な中、なぜ退職共済を廃止するのか。日本知的障害者福祉協会で共助会を設け、退職金制度を厚くすることができますれば、人材確保に繋がるのではないかとの意見が上がりました。

2日目は、NPO法人千葉市視覚障害者協会副理事長 高梨憲司氏を講師に迎えての記念講演では「障害者差別解消法がもたらしたもの」社会はどう変わるか、変えられるのか、そして障害者自身の役割は」をテーマに、ご自身の実体験を踏まえたの講演がありました。共生社会の実現に向けて、障害とは何か、障害とはだれもが持ちうる属性の一つであるとともに誰もが障害者になりうる可能性があり、障害があると社会で生活しづらいのは、異なる属性を有する多数派の人々が築いた社会環境と障害という属性を有する少数派の人々との社会的障壁が要因であること、また障害者に対する差別や偏見は人々が障害という属性を知らないことが最も大きな要因であること、誰もが望む共生社会を実現するには、少数派（障害者）の積極的な社会貢献も必要であり、障害者は住みやすい社会にするための知恵やアイデアを沢山持っていることがあります。

障害者差別解消法がもたらす変化と課題として、合理的配慮、個々の障害特性と社会的環境との間に生じる不調和を改善する方法として、法では事業者に対して合理的配慮の提供を求めているが、合理的配慮を行うことが過重な負担となる場合は免責されるが、そうした場合であ

会は人の価値を社会に役立つか否かで評価しており、経済優先の社会では経済的価値が最も重視され、そうした価値観の下で育てられてきた私たちは知らず知らず優生思想的価値観に毒されているのではないか、また福祉に携わる者として、他人を評価する前に自分自身に潜むかもしけない悪しき価値観を払拭しなければならず、そして互いの価値観の違いを認めながらも、人の尊厳と個性を尊重し合い、自らが望む生活と自己実現を果たすことが可能な社会、差別や格差のない多様性が尊重される社会でなければならぬと話されました。

来年の第48回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会は千葉大会であり、今回の会場であるアパホテル＆リゾート（東京ベイ幕張）で開催されます。参加者を「おもてなし」できるよう、協会会員の皆様と一緒に団結して良い大会づくりを目指していけたらと思います。以上報告いたします。

広報委員会
中里の家
委员長
畠山正昭



つても可能な限り当事者間の建設的対話により、また合理的配慮の提供は障害当事者からの意思表明を前提としており、また合理的な意思表明がなくとも事前の改善措置が必要であるとのことになりました。

結びに現代社

11月23日、千葉市文化センターに於いて40法人の参加を得て実施しました。

9月下旬に千葉県内及び都内の大学、短大、専門学校など42の関係機関へ事前のご案内をしましたが、11月中は実習期間の学校が多くタイミング的にはあまり芳しくない状況ということもありました。

そこで今回は、この問題を一事業所の問題と捉えるのではなく、協会全体の問題として考え、会員事業所における職員採用の機会を協会として設けてみようということになり政策委員会が実施することとなりました。

実施日の問題や私たちの準備不足もあり、このような結果とはなりましたが、それなりに状況もわかり意義はあったのかなと思っています。ご参加いただいた事業所の皆様には期待外れのことだと思いますが、当日は会場準備からお手伝いいただき感謝申し上げます。

次回があるとすれば、皆さまからのご意見などを参考にさせていただきます。

政策委員会 委員長 上総ゆうゆうの郷 樋口敦夫



「人の役に立つお仕事」 合同説明会

第13回 自立支援セミナー2017 —社会福祉法人改革— 開催のお知らせ

13回目を迎えた今回の「自立支援セミナー」は「社会福祉法人改革」と題して、地域福祉に積極的に取り組まれている法人から、障害を持つ家族からの思いを、それぞれのお立場からお聞きする企画といたしました。

- ＜日時＞ 平成29年1月29日(日) 13:00～16:50
 ＜会場＞ 千葉市文化センター3階 アートホール
 千葉市中央区中央2-5-1
 ＜次第＞ 12:15 開場受付
 13:00 開会挨拶・福祉情勢 会長 里見吉英
 13:30 講演1 「社会福祉法人改革の目指すもの」
 生活クラブ風の村 理事長 池田 徹氏
 15:20 講演2 「障害者の親として生きる」
 タレント・工業デザイナー・怪談家 稲川淳二氏
 16:50 閉会

平成28年度 福利厚生事業

福利厚生委員会 委員長
上総喜望の郷 中 村 敏 久

第23回施設職員 交流バレーボール県大会



平成28年11月16日千葉ポートアリーナにおいて、施設職員交流バレーボール県大会が開催され、今年も各ブロックの代表16チームで熱戦が繰り広げられました。なんと今年は大波乱！誰もが優勝間違いなしV9と思われていた大会8連覇中のみずほ学園がなんと一回戦で姿を消す展開となりました。

一回戦で大会8連覇中のみずほ学園をフルセットの末に撃破!!そのままの勢いで他を寄せ付けない強さで見事優勝！この快挙に会場はもちろん、ふる里学舎ベンチは大盛り上がりでした。優勝を決め里見理事長を胴上げする姿を見て、これは選手だけではなく応援に駆けつけた法人幹部の方や職員の皆さん一致団結し大会に臨んだ成果だと感じました。

ここ8年間はみずほ学園にどのチームが勝利するかが県大会に出場する全チームの目標でもあります。今年はどうなるかと注目をしておりました。今大会の抽選をした時点では、

ふる里学舎は一回戦でみずほ学園との対戦となり、しかも二回戦で対戦する隣のブロックがふる里学舎松香園と和田浦との勝者となり、佑啓会にとつては最悪の抽選となってしまったのかと思いました……ところが心配後無用とばかり「打倒みずほ学園」と法人全体で県大会に臨んで来た様子でした。その結果が優勝という最高のご褒美となつたのだ

と感じました。本当に見事なチームワークでした！

しかし、来年からは「打倒ふる里学舎」と各チームからマークされるのはもちろん、みずほ学園はリベン

ジと闘志を燃やし挑んで来ると思われます。来年の大会は今年以上に盛り上がりを見せるのではないかと今から楽しみとなりました。

こちらも勢いありました！準優勝 (八日市場学園チーム)

こちらの前年度準優勝ブロックでも波乱がありました！八日市場学園は2年連続準優勝だった大久保学園に準決勝で対戦し、なんと見事ストレート勝ちでした。決勝戦では惜しくも敗れ準優勝となりましたが、八日市場学園は昨年も敗者トーナメントで優勝する程の元々実力のあるチーム！反対のブロックは前年度優勝チームが初戦敗退し、こちらのブロックでも下馬評を覆し見事に決勝まで勢いに乗って勝ち進みました。八日市場学園はとてもチーム力が高く、来年こそはと期待が持てるチームでした。

『大会結果』

優勝	ふる里学舎
準優勝	八日市場学園
福利厚生委員長賞	みずほ学園
敢闘チーム賞	安房広域福祉会

『県大会出場チーム』

東葛地区・大久保学園・ふる里学舎松香園

千葉地区・ふる里学舎・九曜会・さきょうう会・

北総地区・北総育成園・野菜福祉会・八日市

成田地区・菜の花会・千手会・協和・日吉厚生園

県南地区・みずほ学園・安房広域福祉会・長生園

チーム)

第1回施設職員交流野球大会



今年度より職員交流野球大会を開催する事としました。出場希望を募集したところ14チームのエントリーがありました。当初3月に予選大会を開催し、決勝大会は6月にと予定しましたが、しかし……予選大会は雨で中止となり、6月に予選会を開催する事としましたが、しかも5チームの日程が合わず辞退となり大変申し訳なく残念でもありました。結果9チームによる予選大会を抽選にて4チームと5チームのトーナメントを2日間で開催し、決勝トーナメント3チームと敗者トーナメント2チームの計5チ

ームで8月に決勝大会を開催いたしました。決勝大会当日になると今度は台風が接近し、決勝トーナメントと敗者決勝戦の計2試合は行なえましたが、最後の決勝戦はまさかの雨天ノーゲーム……これも延期となり11月21日によくやく決勝戦が実施できました。

今年度より野球大会を開催しましたが、やはり屋外でのスポーツは天気に左右され皆さんにご迷惑をお掛けしながらも、皆さんのご理解とご協力に助けられ何とか実施できた事を感謝致します。ありがとうございます。来年度以降も職員交流野球大会を開催致しますので、多くの事業所の参加をお待ちしております。よろしくお願い致します。

祝！ 第1回優勝!!（みづき会チーム）

予選大会で野栄福祉会に敗れましたが、トーナメント戦で2試合を勝ち進み決勝トーナメント出場となりました。決勝トーナメントにおいても勝ち残り決勝戦で再び野栄福祉会との対戦。まるでWBCの様な展開となり、結果、見事リベンジ！ 10対2で勝利し初代チャンピオンに輝きました。決勝前までは予選大会にて一度負けているので野栄福祉会の有利と見られておりましたが、試合終盤まで2対2の投手戦で粘り8回にビックイニングを作り逃げ切りました。試合後半の集中打はお見事で「あっぱれ！」でした。

惜しい！ 準優勝!!（野栄福祉会）

予選大会ではみづき会に大勝し俄然有利と考えられておりましたが……投手戦の末、惜しくも準優勝となりました。しかし、野栄福祉会はバッテリーを中心に守りから試合を作るチームであり、チャンスを確実に点に結びつける堅実

な野球を展開します。来年は逆リベンジと優勝を狙える力のある素晴らしいチームでした。来年は「打倒みづき会！」期待しております。

《大会結果》

優勝

みづき会

準優勝

野栄福祉会

福厚生委員長賞

安房広域福祉会

敢闘チーム賞

清郷会

《県大会出場チーム》

東葛地区

…大久保学園・小池更生園

千葉地区

…佑啓会

北総地区

…野栄福祉会・楨の実会・みのり福祉会

成田地区

…清郷会

県南地区

…安房広域福祉会・みづき会（9チーム）

第15回施設職員交流ゴルフ大会

第15回職員交流ゴルフ大会が8月30日小見川東急ゴルフクラブにて72名の参加で開催される予定でした……しかし今年は何故か天候に恵まれず、前日から台風が接近しゴルフ場がまさかのクローズとなり、野球大会同様に延期となりました。前日のぎりぎりまでゴルフ場の担当者とスタート時間の変更等を打ち合わせし、何か開催をと調整しましたが、結果今回は中止とさせていただきました。また、その際には参加予定をされていた皆さんには、ご案内が二転三転しご迷惑をお掛けした事をお詫び申し上げます。その延期させていただいたゴルフ大会は、12月7日に同ゴルフ場にて開催致しました。結果は次号に掲載致します。次回開催にも多数多くの参加をお待ちしております。

新事業所紹介



いんば学舎・陣屋

「笑顔」・「感謝」・「初心」を忘れずに



平成25年6月1日、

印旛福祉会に4つ目の

東日

日中活動の場「いんば

学舎・陣屋」が開設致

しました。

設立の経緯

としては、西印旛地域

在住の障がいを持たれ

ました方々の日中活動の場

が飽和状態

という問題

に直面していたこと、

車椅子を利用されている方に充実したサポートを行える場の拡充が地域の方からの要望として挙げられていました。私たちの生活も4年目を迎え、少しづつではございますが軌道に乗って参りましたので活動のご報告も兼ねてお届けします。私たち農業を中心に据えた生活の中で陶芸や紙すき等の作品づくりや、収穫した大麦を麦茶に、フリントコーンをタコスの生地へ、そして蕎麦づくり等の加工・調理など介させていただきます。私たち農業を中心据えた生活の中で陶芸や紙すき等の作品づくりや、収穫した大麦を麦茶に、フリントコーンをタコスの生地へ、そして蕎麦づくり等の加工・調理など自然の恵みを直に感じられる環境のもとで、「命を育む活動」を基本に掲げ生活しております。また、希望者の方を対象にPTの指導に基づいたリハビリ支援、特殊浴槽を用いた入浴支援、近隣の歯科医師による摂食・嚥下機能評価を基準とした食事支援等、一人ひとりのニーズに応えていけるよう日々努めております。立地環境としては旧草深小学校の体育館の跡地となります。校舎は平成17年

年4月1日に千葉市中央区浜野町に開所致しました、通所の生活介護事業所です。2階部分には居室やリビング、浴室や遊戯室を設置しており、準備が整い次第、単独型短期入所（定員6名）と放課後等デイサービス（定員10名）を開始する予定

社会福祉法人印旛福祉会

2月より公

共施設「そ

うふけふれあいの里」

として地域の方々がご

利

用されておりま

す。

前の前はきれいに整備されたグラウンド。週末には活気溢れた少年野球の子供たちで賑わいます。建物は木造2階建て。大黒柱の杉、大きな梁は赤松。

本大震災後に整備された事業でしたので、復興支援の一環として福島の木材を使用させていただきました。人との触れ合いの中で生まれる経験や記憶は何物にも代え難いかけがえのない宝です。今ある生活に心から感謝です。今後もご関係の皆様に見守られながら、お互いが等しくその存在を認め合い、共に思い合える中でこそ生まれる笑顔を守りつつ活動を進めていきたいと思つております。

また、地域の方々との交流の場を積極的に持つことで私たちの活動が地域に根差したものとなるよう努めて参りたいと思います。



ご利用される方は知的に障害をお持ちの方がほとんどですが、精神の障害や身体の障害も併せてお持ちの方もいらっしゃいます。現在の定員は20名ですが、行く行くは40名へと増やしていきたいと考えております。

活動についてですが、グラウンドが無い為、主に室内活動を提供しております。職員全員で意見を出し合った結果、現在は石鹼等の小物作りを行っています。その他、公園散策や地域清掃等の屋外活動も行っています。ご利用される皆さんに「今日も来て良かった」と感じて頂くとともに、働く充実感を得て頂けたら、と考え支援を提供しております。

また、住宅地の中にある事業所として、地域の皆様との交流にも取り組んでおります。具体的には、町内会への加入や行事参加、地域清掃、災害時の協力体制などを実行しております。

「こころふる」という名称は、開所準備中に法人内職員から候補を募り、決定しました。ハートフル（heartful）という英単語をもじった言葉であり、こころが満タン（full）になるような支援とこころが震えるような出会い、という意味も込められています。そんな施設になれるよう、職員一同全力で支援をしていきたいと思います。皆様、もし機会がございましたら、是非お立ち寄り下さい。

開所から半年を経て

社会福祉法人九曜会

こころふる浜野

施設長 山田 晓弘

社会福祉法人九曜会 こころふる浜野は平成28年4月1日に千葉市中央区浜野町に開所致しました、通所の生活介護事業所です。2階部分には居室やリビング、浴室や遊戯室を設置しており、準備が整い次第、単独型短期入所（定員6名）と放課後等デイサービス（定員10名）を開始する予定

リーダー支援員 酒井裕作



であります。

ご利用される方は知的に障害をお持ちの方がほとんどですが、精神の障害や身体の障害も併せてお持ちの方もいらっしゃいます。現在の定員は20名ですが、行く行くは40名へと増やしていきたいと考えております。

活動についてですが、グラウンドが無い為、主に室内活動を提供しております。職員全員で意見を出し合った結果、現在は石鹼等の小物作りを行っています。その他、公園散策や地域清掃等の屋外活動も行っています。ご利用される皆さんに「今日も来て良かった」と感じて頂くとともに、働く充実感を得て頂けたら、と考え支援を提供しております。

また、住宅地の中にある事業所として、地域の皆様との交流にも取り組んでおります。具体的には、町内会への加入や行事参加、地域清掃、災害時の協力体制などを実行しております。

「こころふる」という名称は、開所準備中に法人内職員から候補を募り、決定しました。ハートフル（heartful）という英単語をもじった言葉であり、こころが満タン（full）になるような支援とこころが震えるような出会い、という意味も込められています。そんな施設になれるよう、職員一同全力で支援をしていきたいと思います。皆様、もし機会がございましたら、是非お立ち寄り下さい。

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント22

平成20年度から21回にわたり61の“チ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“チ自慢”です!

東葛南　社会福祉法人ハ千代翼友福祉会　友愛みどり園

2つのグループ(集団)での生活

『生活介護事業所 友愛みどり園』は、1人の利用者が2つのグループ(集団)に所属し生活しています。

一つは10数名で構成される【ホーム】というグループです。開所時から15年間(新入所者を除いて)メンバーを変えずに、仲間同士のつながりが持てるようになると様々な取り組みを行っています。毎朝同じメンバーがホームで顔を合わせ、それぞれが励ましあい仕事(生産活動)に出かけ、また戻ってくる。まさにアットホームな空間になっています。もう一つは【生産活動(仕事)】です。陶芸・木工等、これもまた10数名で構成される5つの班があり、その道の「職人」になれるようにと切磋琢磨しながら「側楽」※【側(そば・まわり)の人たちを楽(ラク)にさせる、たのしくさせることが、本当の意味でハタラクことではないか、という考え方】を実践しています。そこには、真剣な表情で作業に向かう利用者の姿があります。

この2つのグループを行き来する中で違った表情を見てくれ、活き活きとした利用者の姿があります。



支援員 鈴木 徹

千葉　社会福祉法人オリーブの樹　オリーブハウス

4種類の障害福祉サービスを展開!!

オリーブハウスは1984年に障害者5人が働く小規模作業所としてスタートし、2014年には設立30周年を迎えることができました。現在では【就労移行】、【就労継続支援A型】、【就労継続支援B型】、【日中一時支援】の4種類の障害福祉サービスを展開しています。そして、今年度から千葉市福祉作業所(亥鼻福祉作業所、鎌取福祉作業所)の移譲という大きな出来事がありました。

この2施設が増えることにより、これまでの利用者の人数のほぼ倍近くの増員となりました。オリーブ亥鼻福祉作業所では藍染製品や型染め製品を作成しており、オリーブ鎌取福祉作業所では手芸品、紙漉き製品を作成しております。小学校、中学校のバザーや文化祭での販売機会の多いオリーブハウスにとっては心強い仲間が加わりました。今後、利用者も増えて益々利用者の自立と社会参加を支えることに努めていきます。

職業指導員 山崎 順平



千葉知協 トピックス

千葉県第2位!
全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」

10月22日～24日、岩手県北上市にある北上総合運動公園北上陸上競技場をメイン会場にし、盛岡市を中心とする岩手県内の8市町で第16回全国障害者スポーツ大会が開催されました。

千葉県からは総勢56名の選手を派遣し、

東京都に次ぐ金62個、

全国第2位の好成績を収めました。

知的障害関係の派遣選手では、28個(4×100mリレーを含む)の金メダルを獲得し、折原巧真(陸上200m)、米澤諒(陸上800m)、安西伸浩(陸上800m)、鈴木裕貴(陸上100m)、中島啓智(水泳50m自由形)、鈴木千絵子(水泳50m平泳ぎ)の5選手が大会新記録しました。また、千葉市選手団も総勢37名の選手を派遣し、7個の金メダルを獲得し、大活躍をしました。



申し上げます

絵画展
最優秀賞..坂井富美男
(ピクシーフォレスト)

千葉県知的障害者福祉協会会長賞..

（アーバンドハイエイ）

編集後記

くすのき苑 大橋 宣彦

今年の始めにおみくじで大吉を引きました。年末になり、平穏な日々が大吉であることに気が付きました。皆様にどうぞ来年も良い年でありますように。

第43回 手をつなぐスポーツの集い



絵画展 最優秀賞「かけっこ」坂井富美男さん

千葉県障がい者スポーツ協会会長賞..
大木隆文(ビーアンビシャス)

(いんば学舎・陣屋)

努力賞..木内陽介(ネクスト名木小)
同..高久順(みちる園)
成田市のぞみの園 千葉健彦

手をつなぐ作品展日程

■北部地区 イオンモール八千代緑が丘

平成29年2月23日(木)

午前／会場準備

午後／販売

2月24日(金)・25日(土)・26日(日)

販売

■中部地区 日程調整中

■南部地区 イオンモール富津

平成29年2月23日(木)
午前／会場準備
午後／販売

2月24日(金)・25日(土)・26日(日)

販売

事務局便り

事務局長 千日 清

今年も残すところあと僅か。とは言え、区切りのつけに嬉しい毎日。健康の管理は利用者ばかりではなく、職員ひとりひとりの自己努力も大切。心静かな新年の幕開けを祈念し、この一年間、皆様からの千葉協会への多大なるご協力に心から御礼申し上げます。